

文部科学大臣 あべ俊子 殿
文部科学副大臣 野中 厚 殿

NPO 法人有明支縁会
理事長 草野紀視子
長崎県諫早市飯盛町佐田 26-6
090-2506-0813
HP- <http://tasukeaitai.org/>
mail- info@tasukeaitai.org



学校にいけない子供達のために！ 公的支援・オンライン学習支援・支援活動の連携を求める要望書

【趣旨】

私たち NPO 法人有明支縁会は、病気や不登校、コロナ後遺症などにより学校に通えない子どもたちに対し、オンライン学習支援やメタバース型フリースクールを提供し、学びと心の居場所を守る活動を行っております。

文部科学省の指針に基づく「出席扱い制度」や「ICT を活用した学習支援の拡充」を実現するため、以下の通り要望いたします。

1. 出席扱いとなるオンライン学習支援の制度化と全国周知

- 当法人が提供している「すらら」（文部科学省推奨教材）を活用したオンライン学習支援が、**学校長判断による出席扱い**として認定された事例があります。
- 今後は、このような先行事例をもとに、全国の学校・教育委員会に対して**文部科学省として制度活用を促す通達・周知**をお願いしたいと考えております。

2. オンライン学習履歴の学校との共有システム構築支援

- 自宅でのオンライン学習履歴が学校側でも確認できるよう、**保護者・学校と連携した学習データ共有システム**の構築を当法人が行わせていただきます。
- システム導入に対し、保護者に対する導入費用の支援と共に、このような民間支援の活用事例を全国の自治体・学校に共有していただけるよう、**文部科学省としての制度支援・広報協力**をお願いいたします。

3. オンライン・メタバース空間を活用した「居場所」としてのフリースクールの支援

- オンライン空間上での「フリースクール的な居場所づくり（バーチャル教室）」を提供しています。
- 子どもたちが孤立せず、安心して仲間と関われる学習環境として、**地域・学校と連携しながら学校外活動としての評価や公的支援**を要望いたします。

4. NPO 法人有明支縁会の活動を文部科学省のホームページに掲載

- 子どもたちへの学習支援・心の支援の取組みとして、**文部科学省ホームページにて当法人の活動**をご

紹介いただきたいと考えております。

- 信頼ある情報として認知されることにより、当法人を通じた支援を必要とする家庭へのアクセスが広がり、支援格差の是正にもつながります。

5. 委託事業としての公的認定を要望

- 民間団体による**地域・家庭と学校をつなぐ中間支援の役割**が今後さらに重要になります。
- 当法人のような支援団体を対象とした**委託事業またはモデル事業への採択制度の創設・活用**をご検討ください。

【団体理念と社会的意義】

NPO 法人有明支縁会は、「みんなでみんなを助け愛」を理念に掲げ、制度の狭間で苦しむ方々に寄り添い続けてまいりました。

行政や医療の支援が届かず、日々の暮らしに困窮しながらも、声を上げることすら難しい方々が、全国各地に数多く存在しています。

生活必需品も満足に手に入らず、幼い子どもを抱えながら「家にあるものが少しでもお金になれば」と願う母子家庭の方々、寝たきりでありながら5級という軽度の障害と判定され生きることが限界にある方々、そうした方々に対し、民間としてできる限りの支援を行い、ときには個人負担でも食料や生活費を届けています。

支援を求めている元へ辿り着かれる方々の中には、深い絶望の中で「最後の砦」として頼って来られる方も少なくありません。自死を考える方の声を聞き、現地へ急行して支えることもあります。

そうした一人ひとりの命と生活に真摯に向き合うことこそが、NPO 法人そして人として支え合いの社会を目指すために必要なことだと考えております。

また、理事長草野は、長崎県教育研究大会の講師を務め、各学校での講演（別紙・子供たちの感想）や IT 支援、DX アドバイザーとしても子どもたちの未来を支える活動を継続しています。

「すべての子どもにとって希望となる社会」を創るという強い想いです。

【結び】

現在の教育制度のもとでは、病気や家庭の事情、教員の不適切な対応、さらに学校が普通に学校に来られない子供たちを排除しようとする動きが学校現場では多発しており、学校という場が必ずしも安心して学べる居場所とはなっていない現状があります。

だからこそ、民間支援と制度の連携によって、どの子どもにも学びの機会と学校自体が子ども達の安らぎの居場所を保障する必要があると強く感じております。

この取り組みは、SDGs の掲げる「誰一人取り残さない社会」の具体的な実践であり、見えにくい困難と孤立を可視化し、命と尊厳を守る活動でもあります。

どうか文部科学省の皆様におかれましても、NPO 法人有明支縁会の理念と活動の意義にご理解を賜り、制度との連携や周知、学校側との連携・委託事業としてなど、さらなる協働のかたちを模索させていただければ幸いです。

ともに、希望ある社会の実現に向けて歩んでいただけることを、心より願っております。

●学校での講演活動・生徒たちの感想文

◎令和4年4月28日

1995年4月、当時2年の女子生徒がいじめを苦に自殺した長崎市梁川町の市立淵中(本田勝一郎校長、438人)で4月28日、被災地支援などに取り組むNPO法人「有明支縁会」理事長の草野紀視子さん(52)を講師に「命を考える講演会」があった。

女子生徒の命日(28日)に合わせ開催した。草野さんは「生きるということ」をテーマに、子どもの時に父親からの虐待を経験し自殺も考えた告白。辛い体験を乗り越え、現在、支援活動に奔走しており、「辛い時に助けてくれる人が絶対にいることを忘れないでほしい」と訴えた。

同校は生徒が命を絶った年に生徒会による「淵中いじめ対策委員会(FPKO)」を設立。人権標語の募集や、いじめに関するアンケートをしている。FPKO委員長で3年の山下沙羅さん(14)は「自殺をしたくないし友達にもしてほしくない。自殺は辛くなるだけだ」と講演の感想を話した。(佐藤大樹)

有明支縁会の草野理事長
「助けてくれる人 絶対いる」
長崎 淵中で命を考える講演会



命の大切さを考えた講演会
 ―長崎市、淵中

●講演後すぐに校長室に駆けつけてくれた生徒の感想文

...て、おはあさん(草野さん)に引いてもらってなりました。中学生になっ
 てから、昔の事を思い出さようになっ、外にでた(ない)とか
 しました。思えば、こそを話しているのをみると、「さうさの果てだ」
 とマウスに考えるように、なっ、不登校になりました。その中で、死に
 たいと思うことも、ありました。今も、思う時はあります。けれど
 草野さんのお話を聞いて、親にとって、子供が死ぬことは、なんかに
 つらいかと考えて、死ぬという逃げ道をなくそうと思いました。

うでを切るという事は、いいですが、自分を自分でなぐる時があります。
 しかし、そういうのもやめたいです。草野さんと同じように最近、親にこそ、
 感謝しています。ダメな事をダメと教えてくれたことを、お、感謝しています。
 草野さんの話を聞いて、感動するところが、たくさんありました。気がかき止る事
 がありました。今日は、本当にありがとうございました。

●桜馬場中学校での講演後の感想。普段は何もないと思われていた生徒が、たくさんの生徒が感想文にて思いを吐きだしてきたことにより、職員室が大混乱となったそうです。

私は今日の講演会を聞いて改めて自分は恵まれている人だと感じました。
草野さんや年少期に家にいると親から叱咤けつを受け、学校に行ったら
いじめられていたと聞き自分だったらこんな生活にたえられない
と思いました。私自身もちょいちょい辛い事があったりするけど草野
さんの話を聞いて自分の悩みが小さい事に見えて
きました。講演会を聞いて何か力になる事
がある、たらしだ"と思っただけで小さい事からでも人のためになる事
を始めてみようと思います。

自分は今日 草野さんの講演を聞いて、お礼の気持ちを感じました。
草野さんが小さい頃に両親から虐待を受けていて、自殺なども考えたとき、自分は正しいことで
親にいら立ち、汚い言葉を使ったりしているけど、それはいつか通じていられるありがたみを
当分前と思、てわかまを言っている女だと思いはした。そしてすぐに母親とケンカして
言い合いにならしたりするけど、もし今災害が起、て一生会えなくなると
思うとこのままではダメだと思いはした。だから今この時を生きていられ
いることが当分前としてとらえるのではなく、日々感謝して生きていこうと思
った。

自分は今日 草野さんの講演を聞いて、お礼の気持ちを感銘しました。

草野さんが小さい頃に両親から虐待を受けていて、自殺なども考えたとき、自分は正しいことで

親にいら立ち、汚い言葉を使ったりしているけど、それはいつか通じていられるありがたみを

当分前と思、てわかまを言っているだけだと思いはして。そしてすぐに母親とケンカして

言い合いにならざるを得ない、もし今災害が起こって一生会えなくなると

思うとこのままではダメだと思いはして。だから今の時を生きていさせて

いることが当分前としてとらえるのではなく、日々感謝して生きていこうと思いはした。



私は、今回話を聞いて感じたことがありました。

それは、私たちが気づいていないだけで、困っている人、気づいていない人が、まわりには、たくさんいる、ということです。

私は、昼休みなどは、とくでいの友達しかあまりい

ておらず、みんなとあまり、かかわっていないので、一人でいる人を見かけたら、声をかけ

てみようかなとおもいました。そして、家族や友達に、ありがとう.. をきちんといわないといけないなと思いはしました。



今日、講話を聞いて感じた事は
「身近に居る人の大切さ」です。やはりどれだけ、
口では爆言を吐いたり心の中でも嫌いだ。と思っても
家族・友だち・周りの人はすごく大切に それを
失ってから気づくのでは遅いのだと
今日の講話を聞いてとても感じました。なので
これから、大切な人に大切な分程の気持ちや
優しい言葉を使っていこうと思います。



今日の草野さんの講演を聞いて、私ははじめ、草野さんは
1人7人でも支援をする行動力があってすごいなと思いました。草野
さんの話を聞くにつれて、自分の昔あたたかい心も明る。今につ
なげている草野さんの生き方にあこがれをもちました。
これから、小さなことでも人のやくにたてる
ようなことをしていき、草野さんのような
だれかの心のささえになれるような人になれるような
生活をしていきたいです。



今回、草野さんの講演を聴いて、福祉的な活動をする上で、復興や人
目かけに熱心に取り組むことはもちろんのこと、そこで出会った
人との「縁」が大セカであるということが分かりました。ま
た、私たちでも被災地への復興支援に色々な形で
参加できるということを知り、実際に被災地に
訪れて支援をすることができなくて、
少しでも心の支えになることができる
ような人間になりたいなと思いました。
今日は本当にありがとうございました。
これからも、色々な方の「支縁」をがんばってください。



今回は講話としていたについてありがとうございました。すごく心に響いた
言葉やお話たくさんあり、書ききれない程ありますが、その中で「みとけよ」と
いう言葉はとてかこよかったです。一人で活動をされていて、大変な事やつらい
事もたくさんあると思います。次の日筋肉つうになろうか、つかれようか、ひざい
ちにかけっけ、ボランティア活動をされていて、とても
尊敬しました。「ありがとう」の言葉で全部の事をい
おっしゃっていましたから、私も草野さんのようにボランティア活動に
関わっても、たまたま「ありがとう」という言葉をもらえるようになりたいです。



今回のお話を聞いて「支縁」という言葉でいいなと思いました。あたり前の事が
あたり前にできている私達で、とても幸せな気持ちを実感し、これからは、一つ一つの
事を大事にしていきたいです。今回は、講演本当にありがとうございました。

今日、草野さんから話を聞いて、自分の生き方を決めるのは、
環境ではなく自分自身なのだと分かりました。また、新しい道
を切り開くには、とてつもなく大きな勇気と時間、努力が必要
なのだと知りました。私は現在進路を通して自分の生き方を
考えているのでこの講話はとても参考に
なりました。私も人の役に立てるすばらしい
人になりたいです。



今日の草野さんの講演を聞いて、草野さんには「つらい過去が」あ
ったから「誰かの役に立ちたい」という気持ちで「頑張って」いたと
思いました。私たちが普段にいる「当たり前」が「当たり前」で
なく、たまたま、初めてこの重要性やそのことの大切さに
気がつくことが「できるのか」と思っています。そのために「当たり前」
をなくす前に「あつち」の大切さを今知って
おき、普段の行動や思考などを考え、理
解し、行動したいと思っています。





●長崎工業高校にて平成 29 年 7 月 4 日に講演をさせていただき、約 80 名の生徒と引率の先生方が参加をして下さった 7 月 22 日の活動。講演を聴いて参加してくれた生徒の感想文です。

4. 草野さんに対する印象を書いてください。

他人のためにやる気だして頑張ろうという気持ちを
実現できる人

5. 草野さんに一言。

ボランティア活動ができてこれほど活動は頑張る
ください

6. その他感じたこと・思ったことを書いてください。

最後の便までみんながたくましく参加してくるの
いい。

3. 今回のボランティアに参加して感じたこと・思ったことを書いてください。

ボランティアに参加できて、やはりまだ「まだ」復興ができていないと感じました。
初めてのボランティアに参加して、かなりきつかったけど、被災にあった皆の役にたっている
と思うのが嬉しかったなと思いました。

4. 草野さんに対する印象を書いてください。

今まで「たぶん」苦労して、人の痛みや苦しみもちゃんと理解し、
助けてあげることの出来る人。

5. 草野さんに一言。

作業中は「ほんとにきつかったけど、参加しよかな」という思いが
とてもあります。ほんとにありがとうございました。

6. その他感じたこと・思ったことを書いてください。

また機会があれば、ボランティアに参加したい
と思います。

4. 草野さんに対する印象を書いてください。

他人のために「前目的」とも言えるほど熱心な
手助けを行う印象

5. 草野さんに一言。

いつもお疲れ様です。
自分の身体と相談しながらボランティア活動がはばってください

6. その他感じたこと・思ったことを書いてください。

どんな理由であれ、バス2台分の生徒が志願したのはすごいと思いました。

4. 草野さんに対する印象を書いてください。

一人の常食の行動で何百人という人も動かす活動を始め、とても素晴らしい。
人徳のある人だと思った

5. 草野さんに一言。

これから九州の復興に力を注いで欲しい。

6. その他感じたこと・思ったことを書いてください。

相は貴重な経験をありがとうございました。お疲れ様でした。
出来れば夏工からボランティアバスを出して欲しい。

秋の
今回の活動はとても有意義で素晴らしいと思った。

(受給後にも活動が来れば参加したいです)

ありがとうございます

3. 今回のボランティアに参加して感じたこと・思ったことを書いてください。

まだまだ復興が進んでいないのが、ボランティアの活動が、
いて、もっと自分の力で復興が出来ることを目指してボランティアに
参加したいと思いました。

4. 草野さんに対する印象を書いてください。

仕事も家庭もある中、素晴らしい熱意と人徳のために日々努力を
行う草野さんは本当にすごい人だと思います。

5. 草野さんに一言。

これから秋の復興がめざす参加したいです。
草野さんのことを応援します。

6. その他感じたこと・思ったことを書いてください。

ボランティア活動で「学生」だけでなく「学校や社会」に
出ていけるようにこれからも頑張りたいと思います。



デジタル教材で不登校生支援



画面に映し出された相談への対応を話し合う草野理事長（中央）らメンバー＝諫早市、有明支縁会の活動拠点

諫早のNPO 有明支縁会

不登校の児童生徒が過去最多を更新する中、デジタル教材を活用して学習意欲や自己肯定感を高め、学校復帰や社会的自立につなげる民間レベルの取り組みが、今月、諫早市で始まった。教育関係者もボランティアでメンバーに加わるNPO法人有明支縁会のオンライン学習支援。保護者の相談にも乗り、親子のコミュニケーションを促して改善を図る。自身も不登校の子を持つ親だった草野紀視理事長（53）は「NPO法人だからこそ柔軟に対応できる面もあると思う。当事者家庭に寄り添っていきたい」と話す。

切実なSOS

10月20日夜、市内の草野理事長の自宅敷地に整備した同会の活動拠点。「力を貸してください。日常生活の中に何か一つでも変化があればと思うています」。集まったメンバーが見詰めるモニターには不登校の娘を持つ母親からの切実なSOSが映し出された。中学1年の娘は新型コロナ

感染の後遺症から倦怠感を訴えて学校を休み、授業に遅れた焦りから不登校に。投げやりな気持ちになって自傷行為にも及んだ。メンバーからは「親子双方のフォローが必要」との声が上がった。

学習意欲高め社会的自立へ

に不登校になったという複数の相談を受けたことがきっかけ。要件を満たせば、文部科学省が情報通信技術（ICT）などを活用した自宅学習も学校長の判断で出席扱いにすることを認めていることに着目した。

「救いの手」

不登校の理由や子どもへの接し方が分からずに悩む親も多い中、現職の小学校教育や元中学校校長ら教育関係のボランティアメンバー、心理カウンセラーの資格を持つ草野理事長らが当事者家庭の状況を共有して助言、サポート。民間事業者が個々の学力に合わせて学べるよう開発・提供しているデジタル教材を活用し、各教委や学校、行政、外部のメンタルヘルス専門医らとも連携している。生活困難世帯には同会がデジタル教材利用料の一部を負担。趣旨に賛同する東京神田ロータリークラブの助成で整備した活動拠点は、自主学習などができる「居場所」としても開放する。

文科省の2022年度調査によると、小中学校で病気や経済的理由などを除いて年間30日以上欠席した不登校の児童生徒は、29万9048人（前年度比5万4108人増）と過去最多を更新。本県も公立小で977人（同232人増）、公立中で2038人（同39

0人増）と増加傾向だ。全国調査では、小中学生の不登校の要因として「無気力・不安」が全体の51・8％でトップ。「親子のかかわり方」も7・4％いた。ICTなどを活用した学習で出席扱いが認められたのは小中学校で1万409人。「IGAスクール構想」で全ての小中学生に1人1台のパソコンを配備していることもあってオンライン学習支援は広がっているが、文科省によると、各地の教委による取り組みが主体という。

「救いの手があれば不登校の子どもの心理的に追い詰められず、勉強を続けることができる。支援し合う形が本県でも進んでいけばと思う」。こう語るのはメンバーの公立学校教諭だ。

20代の長女が小学校時代、不登校だった草野理事長は自身の経験を振り返り「不登校の子どもの中には『あなたは独りぼっちではない。支えてくれる大人は必ずいる』というメッセージを伝えたい」と話している。

問い合わせはメール（info@tasukeaitai.org）か同会公式LINEで。

（下巻）



有明支縁会のLINE QRコード